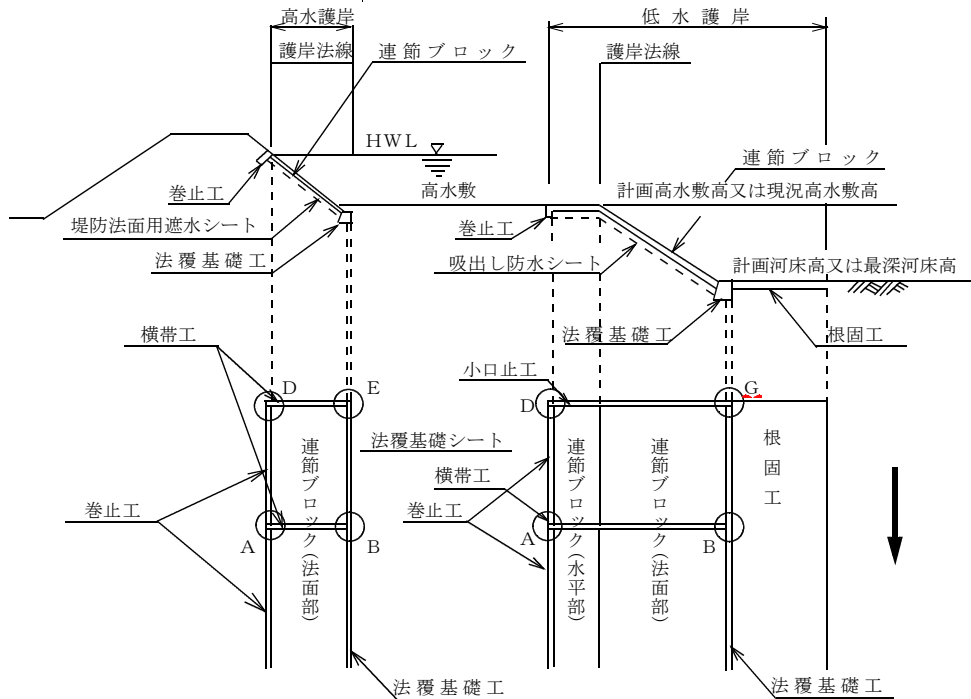


5章 護岸工

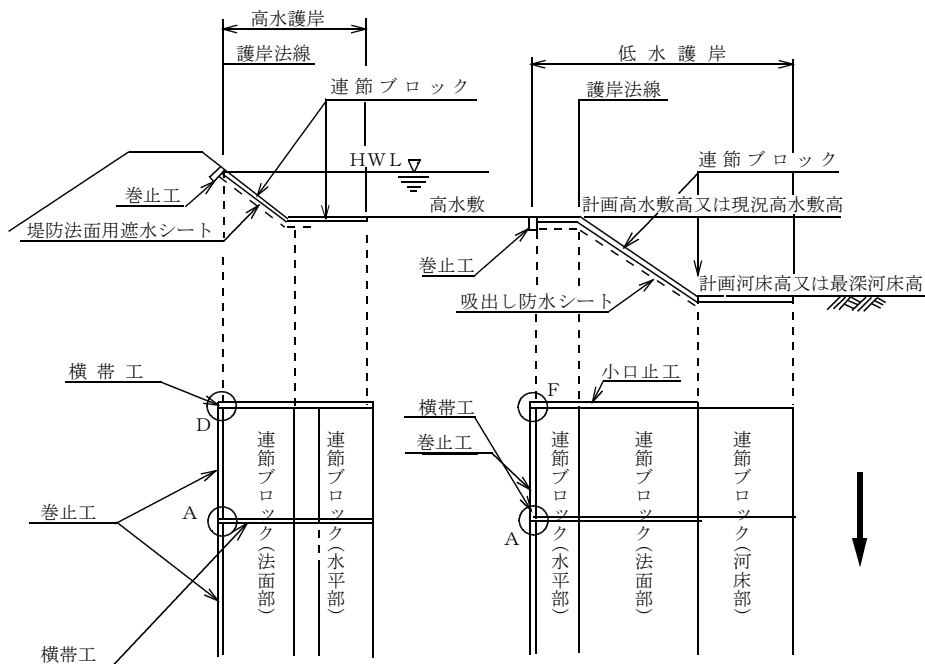
5.1 護岸一般事項

5.1.1 護岸工標準図

法覆工〔連節ブロック〕①法覆基礎工を設ける場合



法覆工〔連節ブロック〕



注1 護岸摺付工は、現場条件・河川特性を踏まえて設けること。

注2 護岸付属物（横帯工・巻止工・小口止工）は、現場条件・河川特性を踏まえて省略できる。

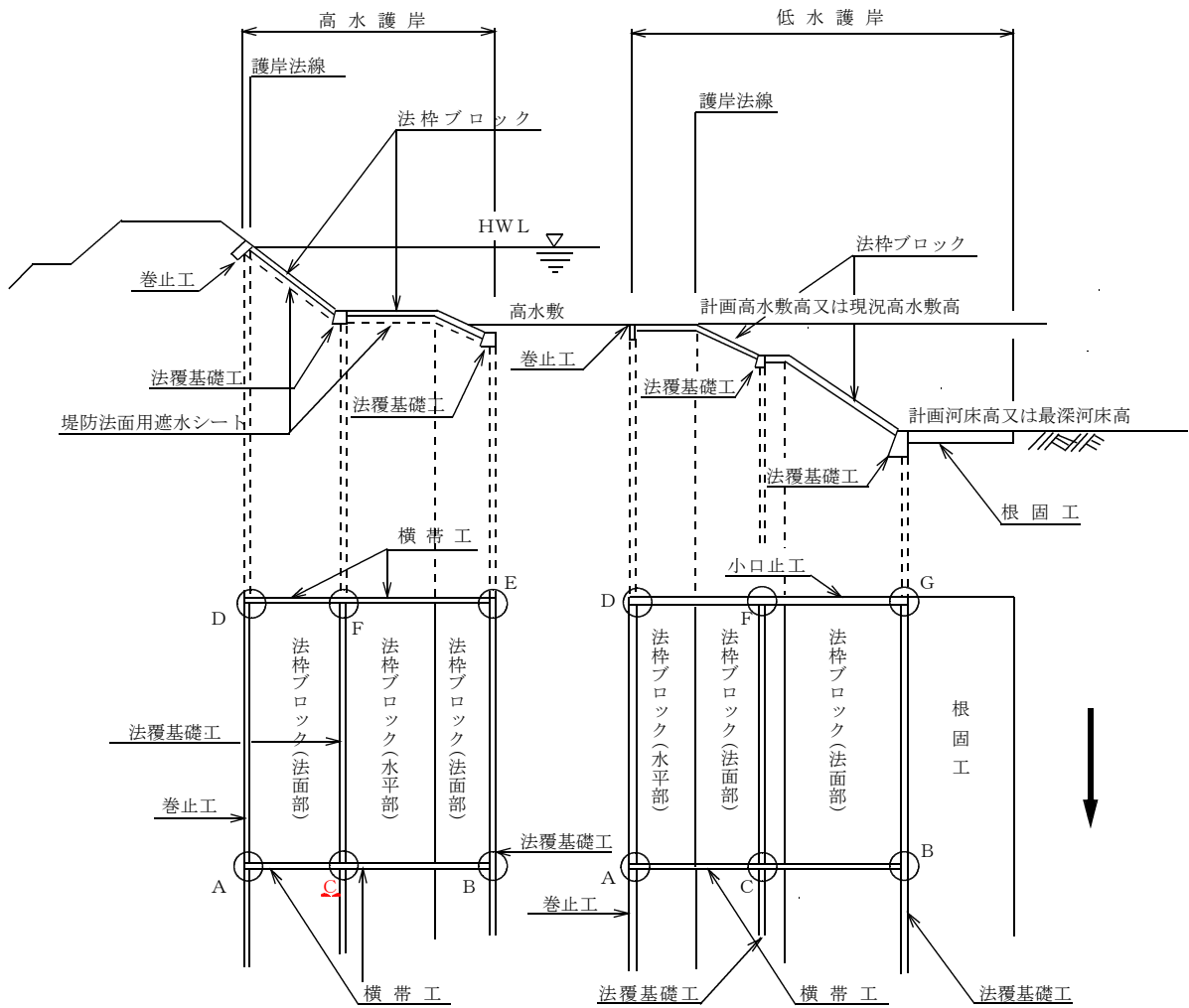
注3 護岸付属物の設置に伴う優先順位は小口止工→法覆基礎工→横帯工→巻止工の順とする。

注4 小口止工は施設全体の縁切りを行うことを原則とする。尚、既製品ブロックを使用する場合はその施工性等を考慮し法覆基礎工背面からの施工を基準とする。

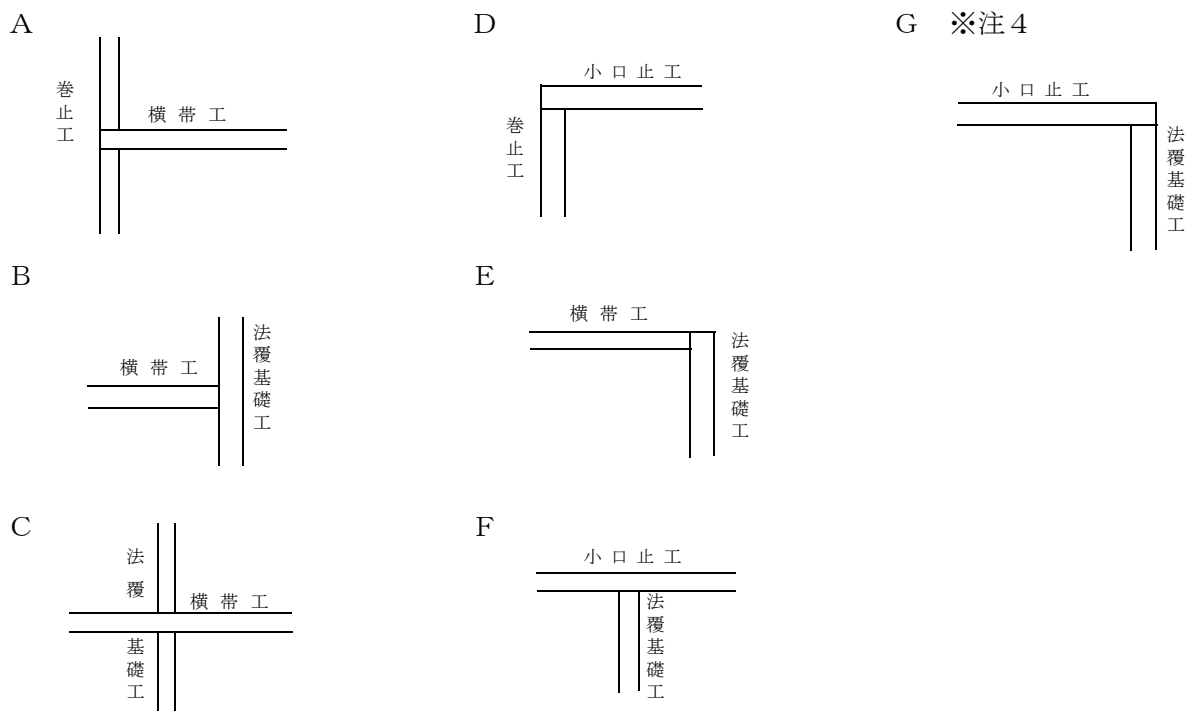
注5 法覆工〔連節ブロック〕②の横帯工設置個所における河床部については、縁切りを行うこととする。また、必要に応じてあおり止め（根固ブロック）を設置するものとする。

注6 法覆工〔連節ブロック〕（法覆基礎工を設けない場合）の高水護岸の水平（たれ）部の巻止工については、施工しない。

法覆工 [法枠ブロック] (間詰タイプ) 標準図



設置部拡大図



## 5.2 法覆工

### 5.2.1 一般護岸

#### (1) 護岸法線

- ① 法線延長をもって護岸延長とする。
- ② 施工基面高は法線位置とする。

#### (2) 設計上における取扱いについて

- ① 法覆基礎工、巻止工、横帯工等はプレキャスト製品を使用することとする。

### 5.2.2 法覆基礎工

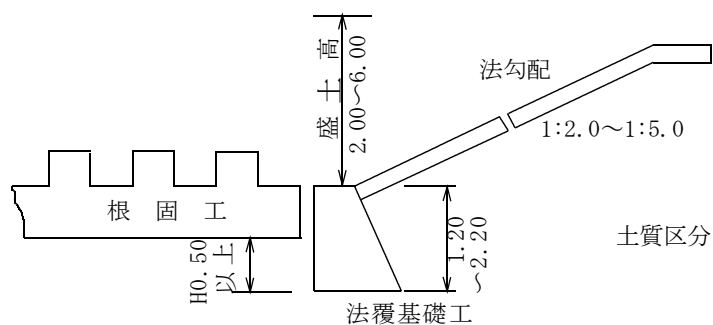
#### (1) 低水路法覆基礎工

- ① 法覆基礎工はプレキャスト製品を原則とする。
- ② 施工延長は、ブロック天端の最短長とする。

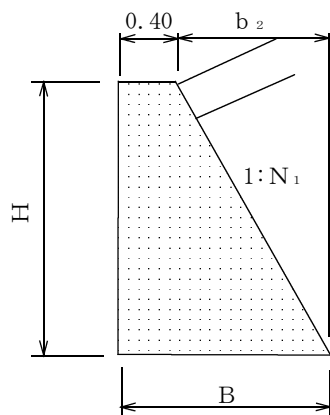
#### (2) 高水敷法覆基礎工

- ① 法覆基礎工はプレキャスト製品を原則とする。
- ② 施工延長は、ブロック天端の最短長とする。

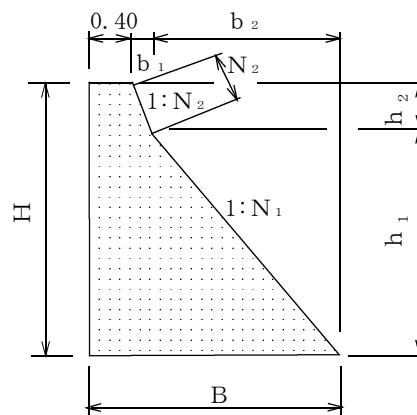
法覆基礎工形状寸法表及び1 m当り数量 (低水路用)



I タイプ



II タイプ



数量……1m当り

(工場製品)

タイプ	H	B	N <sub>1</sub>	N <sub>2</sub>	h <sub>1</sub>	h <sub>2</sub>	b <sub>1</sub>	b <sub>2</sub>	コンクリート	重量	型枠面積
I-1	1.20	1.00	0.50	—	—	—	—	0.60	0.831	1,912	3.77
I-2	1.20	0.88	0.40	—	—	—	—	0.48	0.760	1,748	3.65
I-3	1.50	1.15	0.50	—	—	—	—	0.75	1.153	2,652	4.73
I-4	1.50	1.00	0.40	—	—	—	—	0.60	1.041	2,395	4.56
I-5	1.70	1.25	0.50	—	—	—	—	0.85	1.392	3,203	5.39
I-6	1.70	1.08	0.40	—	—	—	—	0.68	1.249	2,873	5.17
I-7	1.90	1.35	0.50	—	—	—	—	0.95	1.652	3,800	6.07
I-8	1.20	0.80	0.33	—	—	—	—	0.40	0.712	1,639	3.57
II-1	1.50	1.38	0.70	0.40	1.27	0.23	0.09	0.89	1.279	2,942	4.98
II-2	1.70	1.52	0.70	0.40	1.47	0.23	0.09	1.03	1.568	3,606	5.71
II-3	1.90	1.69	0.70	0.50	1.68	0.22	0.11	1.18	1.935	4,452	6.54
II-4	1.90	1.66	0.70	0.40	1.67	0.23	0.09	1.17	1.885	4,336	6.48
II-5	2.20	1.90	0.70	0.50	1.98	0.22	0.11	1.39	2.472	5,686	7.74
II-6	2.20	1.87	0.70	0.40	1.97	0.23	0.09	1.38	2.413	5,550	7.66
II-7	1.20	0.82	0.40	0.20	0.96	0.24	0.05	0.37	0.707	1,627	3.58

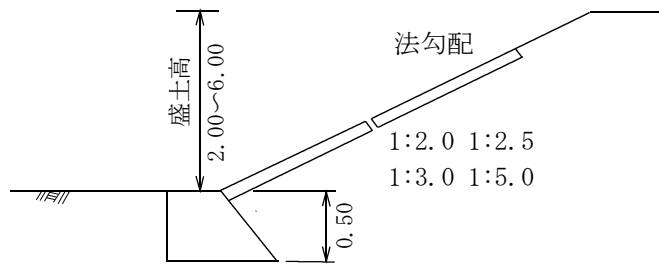
連結金具重量表 (m当り)

タイプ	重量	タイプ	重量
I-1	4.45kg	II-1	4.42kg
I-2	4.36	II-2	4.42
I-3	4.45	II-3	4.51
I-4	4.36	II-4	4.42
I-5	4.45	II-5	4.51
I-6	4.36	II-6	4.42
I-7	4.45	II-7	4.21
I-8	4.30		

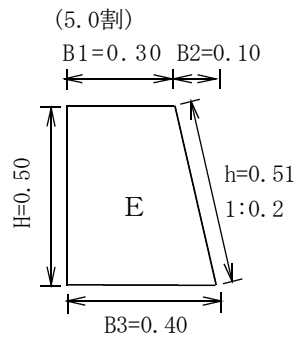
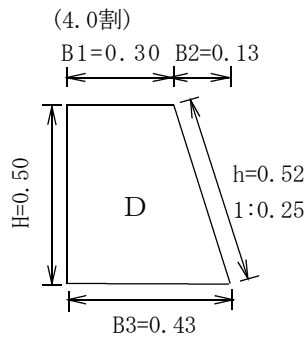
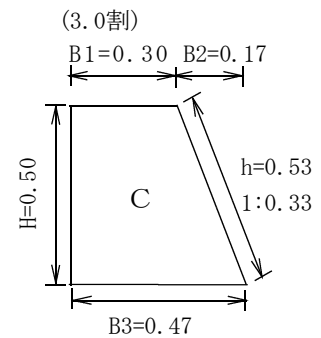
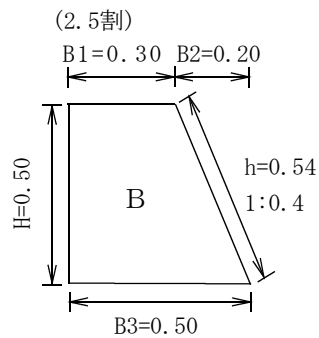
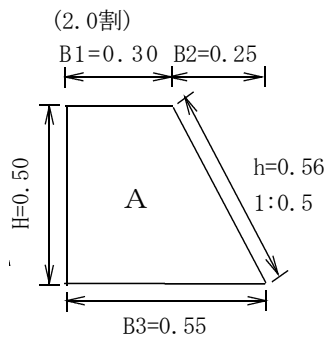
注1 連結金具重量は、1個の長さを2mとして数量換算したものである。

注2 連結金具とは、ペーシー・ボルト・ナット・座金である。

法覆基礎工形状寸法表及び1m当り数量（高水敷用）



法覆基礎工



数量……1m当たり

Type	H	h	B <sub>1</sub>	B <sub>2</sub>	B <sub>3</sub>	n	コンクリート	型 枠	重量	備 考
A	0.50 <sup>m</sup>	0.56 <sup>m</sup>	0.30 <sup>m</sup>	0.25 <sup>m</sup>	0.55 <sup>m</sup>	1:0.5	0.210 <sup>m<sup>3</sup></sup>	1.57 <sup>m<sup>2</sup></sup>	484 <sup>kg</sup>	
B	0.50	0.54	0.30	0.20	0.50	1:0.4	0.198	1.54	455	
C	0.50	0.53	0.30	0.17	0.47	1:0.33	0.190	1.52	437	
D	0.50	0.52	0.30	0.13	0.43	1:0.25	0.179	1.49	413	
E	0.50	0.51	0.30	0.10	0.40	1:0.2	0.173	1.48	398	

連結金具重量表(m当り)

タイプ	重量
A	0.85kg
B	0.82
C	0.80
D	0.78
E	0.77

注1 連結金具重量は1個の長さを2mとして数量換算したものである。

5. 2. 3 天端及び小段

(1) 天端

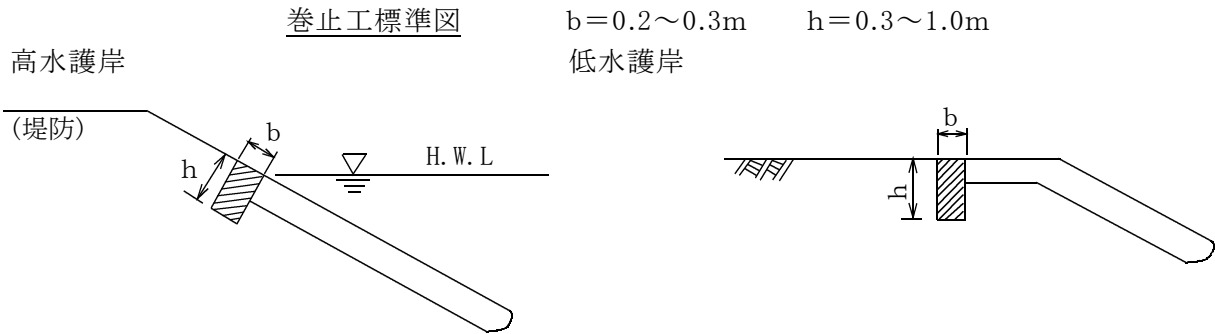
天端幅は2.00mを標準とする。

(2) 小段

低水護岸において法長が10mを越えるような場合には、必要に応じ小段を設けるものとし、小段幅は1.0mを標準とする。

5. 2. 4 巻止工

施工延長は、ブロック天端の最短長とする。



巻止ブロック重量表

(1 m 当り)

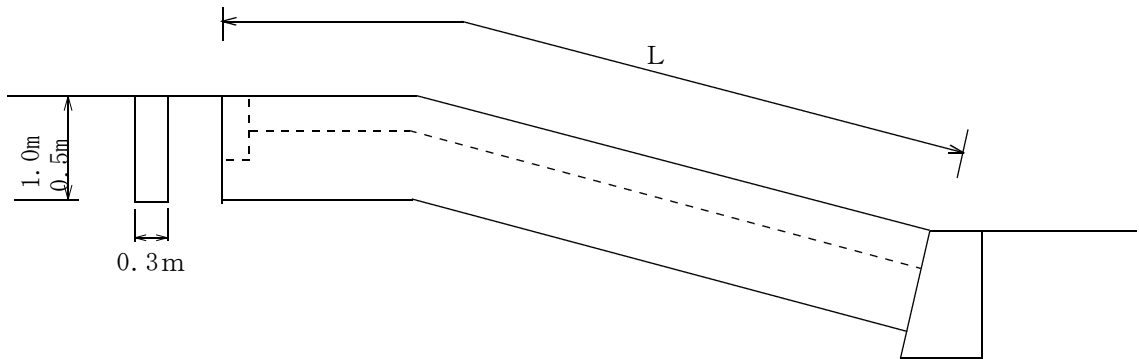
規 格	$H=1.0 \cdot b=0.3$	$H=0.5 \cdot b=0.3$	$H=0.3 \cdot b=0.2$
コンクリート体積	0.291	0.148	0.058
重 量	670.0	340.0	134.5

連結金具重量表

規 格	$H=1.0 \cdot b=0.3$	$H=0.5 \cdot b=0.3$	$H=0.3 \cdot b=0.2$
連結金具重量	7.14kg/m	0.72kg/m	0.62kg/m

5. 2. 5 横帯工

横帯工（低水路）

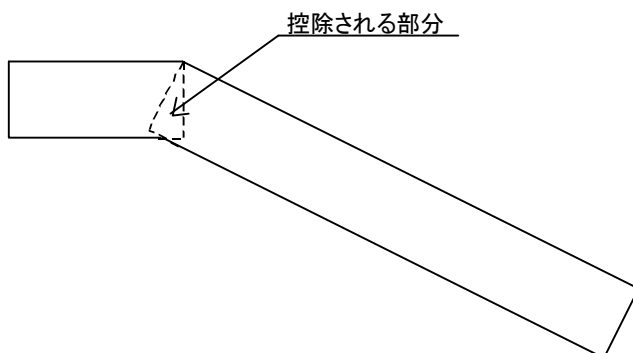


横帯工（低水路）ブロック重量表（工場製品） (1 m 当り)

規 格	コンクリート体積	重 量	曲部の補正值
H=0.5 b=0.3	0.148 m <sup>3</sup>	340.0 kg	— 34 kg
H=1.0 b=0.3	0.291 m <sup>3</sup>	670.0 kg	— 138 kg

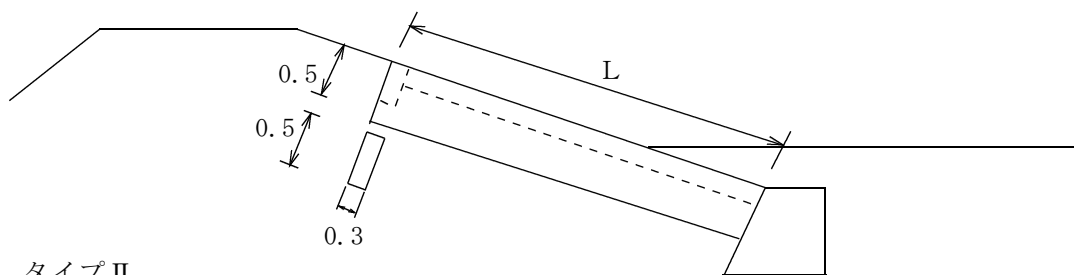
1 箇所当り重量 (例) H=1.0 b=0.3  
 (m 当り重量) (補正值)  
 $W = \text{帯工延長} \times 670.0 \text{ kg/m} - 138 \text{ kg/箇所}$

曲部により控除される部分について

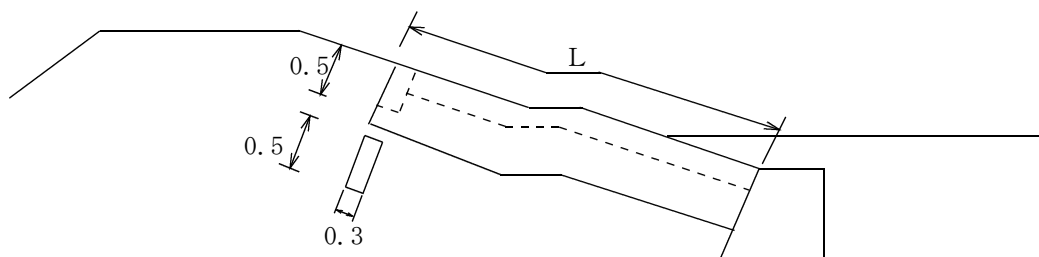


横帯工（築堤）

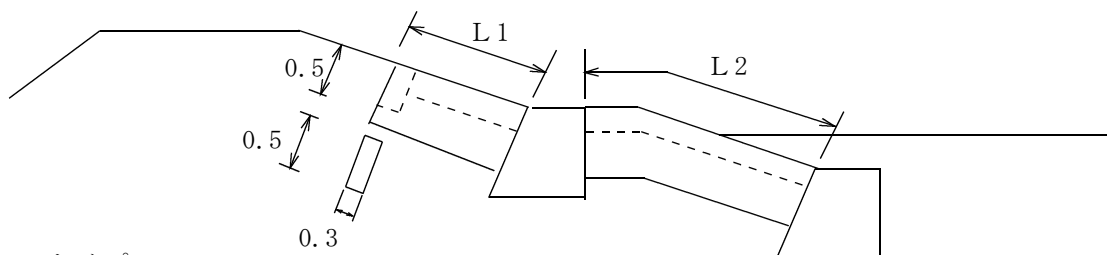
タイプⅠ



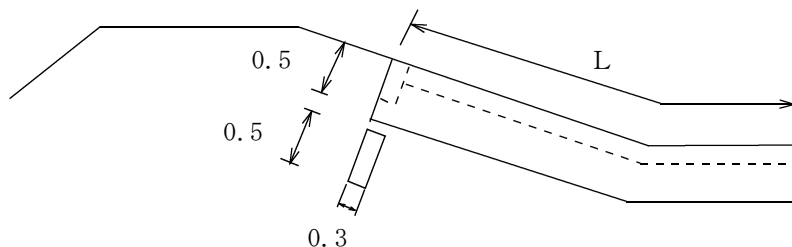
タイプⅡ



タイプⅢ



タイプⅣ



横帯工（築堤）ブロック重量表（工場製品）

（1 m 当り）

タイプ	規 格	コンクリート体積	重 量	屈曲部の補正值
I	H=0.5 b=0.3	0.148	340.0	—
II	H=0.5 b=0.3	0.148	340.0	—
III	H=0.5 b=0.3	0.148	340.0	— 34
IV	H=0.5 b=0.3	0.148	340.0	+ 34

1 箇所当り重量

（例） タイプⅢ

（m 当り重量） （補正值）

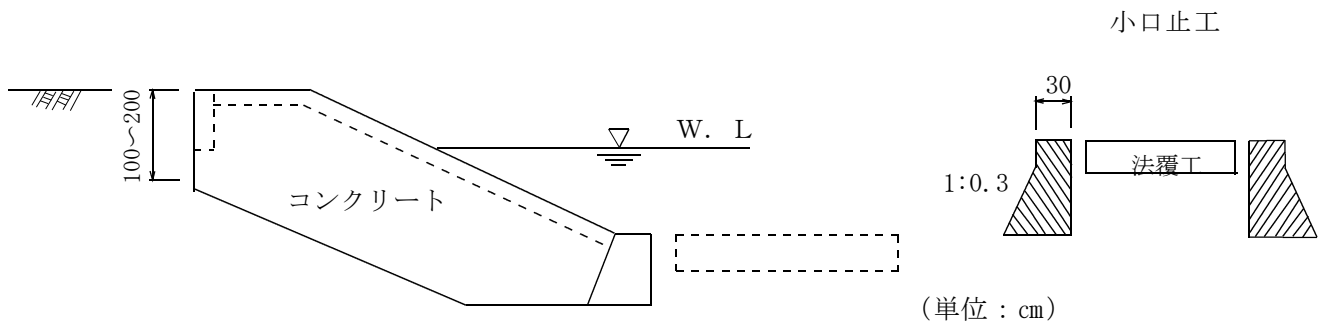
$$W = \text{帯工延長} \times 340.0\text{kg/m} - 34\text{kg/箇所}$$



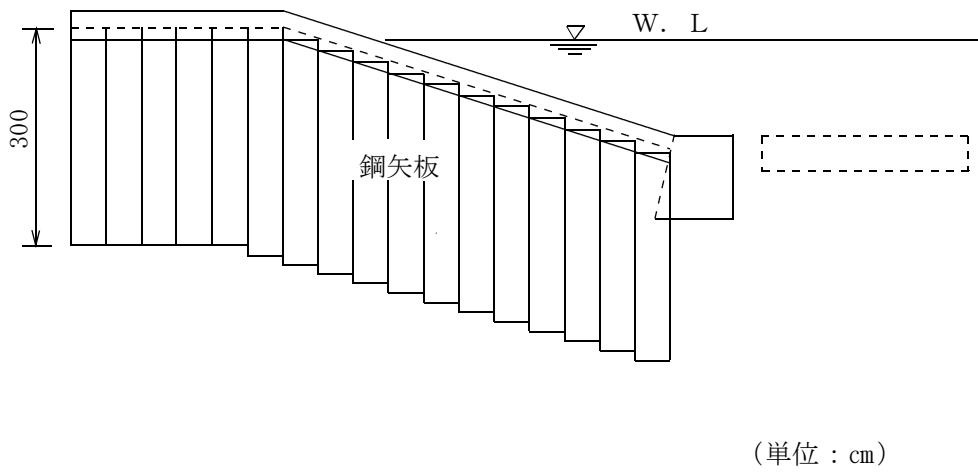
5. 2. 6 小口止工

小口止工標準図

① コンクリート構造



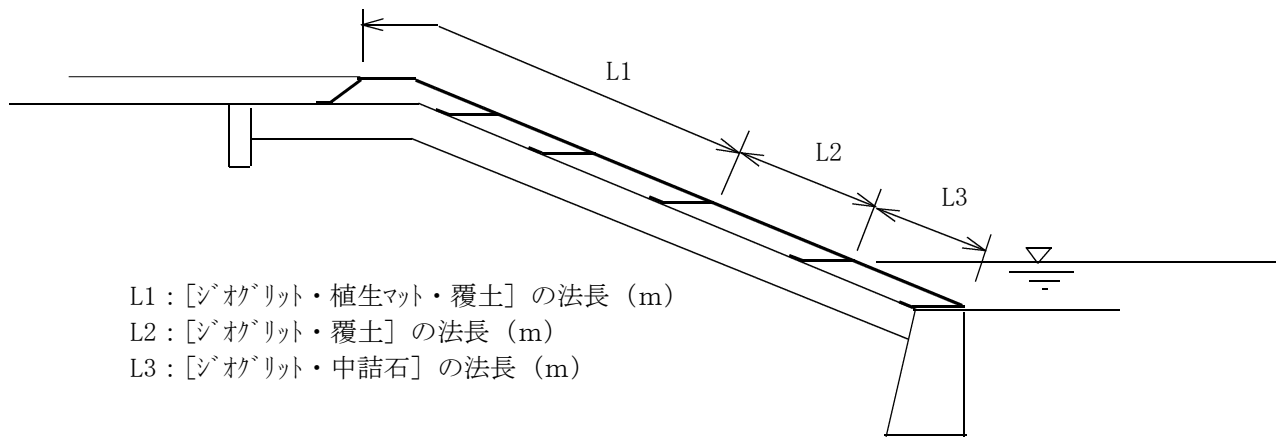
② 鋼矢板構造



## 5. 2. 7 護岸覆土保護工

施工面積の算出にあたっては、護岸覆土保護工参考例によるものとする。

### 護岸覆土保護工参考例



- (注) 1. 護岸覆土保護工は、施工法別に算出するものとし、施工面積は、次式のとおりとする。
- 施工面積 [ジオグリッド・植生マット・覆土] (A1) = L1 × 延長 (L1) …… (m<sup>2</sup>)  
施工面積 [ジオグリッド・覆土] (A2) = L2 × 延長 (L2) …… (m<sup>2</sup>)  
施工面積 [ジオグリッド・中詰石] (A3) = L3 × 延長 (L3) …… (m<sup>2</sup>)  
L1, L2, L3 …… 施工法別延長 (m)
2. 護岸覆土保護工の施工面積は、包込部を含まないものとする。